

令和6年1月23日会頭記者会見 発言要旨

今年は元日早々に能登半島地震、また翌日には、被災地支援に向かう海上保安庁の航空機と旅客機の衝突事故も起こり、つらいニュースが続く年明けとなりました。

改めまして、お亡くなりになった方々のご冥福とケガをされました方の回復、そして今も避難が続く多くの被災者の皆様が、一日も早く、不自由のない生活に戻られますことを、お祈り申し上げます。

■令和6年能登半島地震(影響・対応)について

今回の地震では、京都企業にも一部影響が及んでおります。

本所では、京都企業への影響を把握するため、1月4日から12日にかけて、本所の議員企業を対象に緊急アンケート調査を行いました。回答のあった85社のうち、被災地域に事業拠点を有している企業が16社あり、うち10社は程度に違いはあるものの、オフィスや生産設備に破損が生じるといった直接の被害を受けたとのこと。また今後の事業活動への影響について尋ねたところ、全体の2割にあたる17社が「影響がある」と回答しました。直接被害を受けた企業だけでなく、取引先の被災によって仕入れができずに代替品への切り替えや物流の混乱、また観光ツアーのキャンセルなど幅広い業種に影響が広がっています。

京都商工会議所では、被災地の地域経済がこのような状況から一日も早く復興できるよう、義援金の募集を開始いたしました。義援金は1月19日より受付を開始し、本所役員・議員および会員事業所などに対して協力を呼びかけたところです。振込のほか、各事務所に募金箱を設置し、受け付けます。募金は、日本商工会議所を通じて、被災商工会議所および商工会議所連合会に寄贈し、被災事業者の事業再開、被災商工会議所の再建、観光回復等にかかる事業に充てていただく予定です。

■文化と産業の交流拠点(仮称)について

整備を進めて参りました「文化と産業の交流拠点(仮称)」が無事竣工し、2月5日に記念式典を開催する運びとなりました。

この施設は、文化庁京都移転支援ならびに本所の創立140周年記念事業の一環として、京都府にもご協力をいただきながら、京都府議会議員公舎として使われていた旧・富岡鉄斎邸に、交流拠点となる本館と、文化庁施設の別館を整備したものです。本館は、鉄斎翁が住まわれていた当時の面影を残せるよう、解体前の古材や庭園の樹木、石材等をできるだけ保存・活用いたしました。鉄斎・翁が多くの文人や経済人を招き、交流していたように、この場所が交流と情報発信の拠点となることを目指し、ギャラリーや交流会場としても使用できるホールを設けております。この施設を核に、文化や芸術と産業が融合し、京都から新たな価値創造が加速していくことを期待しています。式典には、都倉文化庁長官をはじめ、西脇知事、門川市長ほか、約50名にご出席いただく予定です。

なお、施設の正式名称や運営方法などにつきましては、現在、京都府と調整を進めていると

ころで、3月頃にあらためてご案内を予定しております。

■「知恵-1 グランプリ」のファイナルステージ開催について

2月21日に「知恵-1 グランプリ」のファイナルステージを開催いたします。

「知恵-1 グランプリ」は、企業の強みを生かして新しい顧客を創造するビジネスプランを認定・表彰するもので、今回で4回目です。チャレンジ部門の受賞プランは、既に決定しており、グランプリとなりました、車椅子専用靴の製造販売をする「株式会社ネーカーズ」をはじめ、ライフスタイルや医療分野など、顧客や社会ニーズに対応したビジネスモデルを含む優秀賞4社について、発表と表彰を行います。また「イノベーション部門」と「コラボレーション部門」については、公開プレゼン審査を行い、当日決定いたします。